

米国の追加関税が EU の競争力のリスクとなる 5 つの理由

本稿は、欧州チーフ・エコノミストである Katharine Neiss が 9 月 26 日に執筆したブログ “Five Risks U.S. Tariffs Pose to EU Competitiveness” の内容を PGIM ジャパン株式会社が要約したものであり、情報提供のみを目的として作成されたものです。

<要旨>

米国の大統領選が差し迫る中、分断化が進む世界において欧州連合（EU）は再燃する世界貿易の緊張に対して依然として脆弱である。2018 年以降、EU の対米貿易黒字は大幅に増加しており、エネルギーを除く米国の対 EU 貿易赤字は対中国の水準を上回る規模にまで拡大している、こうした不均衡の拡大によって、米欧の貿易摩擦が再燃する可能性がある。本レポートでは米欧の貿易摩擦の再燃が欧州経済にとって打撃となる 5 つの理由について考察する。

1. EU にとって米国は最大かつ重要な輸出市場

EU にとって米国は最も重要な輸出先であり、米国の交易条件改善のために EU がその代償を払わされる可能性は高い。EU の GDP に占める（域外）貿易の割合は 45%と米国や中国を大きく上回っており、最大の輸出先による関税引き上げの影響は深刻だろう。

2. 追加関税による輸出コストの上昇

2017 年以降、米国と比べて EU の生産性は低下し続けている。主な要因として、ロシア・ウクライナ紛争以降のエネルギー価格の上昇が挙げられるが、関税引き上げは追加コストとなり、欧州の相対的な競争力をさらに低下させる可能性がある。

3. 欧州に対する海外直接投資の減少

米国による関税引き上げと生産性支援策は欧州企業が拠点を米国に移転させる動機となり得る。これにより、既に低水準にある欧州への民間投資がさらに減少する可能性があり、EU の生産性と潜在成長にマイナスの結果をもたらすだろう。

4. 非対称的な関税は中国の過剰生産を悪化させる

米国による中国製品に対する関税引き上げは、同国の過剰生産を悪化させ得る。この結果、中国製品の価格は低下し、欧州市場でのダンピングを助長する可能性がある。これは欧州企業の競争力低下やデフレ要因にもなり、この場合、政策支援がなければ、再び低成長に陥る可能性が高い。

5. 関税における不透明感

不透明感そのものが景況感の重石となり、国内の需要や生産に悪影響を及ぼすだろう。欧州の米国に対するエネルギー依存は強まっており、米欧間で対立が深まれば、欧州の景況感は一段と不安定になり得る。

結論

EU は既に逆風に直面し、成長促進のために投資拡大が必要とされる中、困難な時期に米国との貿易摩擦が再燃しようとしている。米国大統領選挙の見通しやその後の通商政策は依然として不透明だが、EU の対米貿易黒字が増加し、関税の影響を受けやすくなっていることを踏まえると、この影響によって欧州の競争力はさらに低下し、成長の逆風となる可能性が高いと見られる。

データの出所(特に断りのない限り)：PGIM フィクスト・インカム、2024 年 9 月 26 日現在。

留意事項

本資料に記載の内容は、PGIM フィクスト・インカムが作成した “Five Risks U.S. Tariffs Pose to EU Competitiveness” をPGIMジャパン株式会社（以下当社）が要約したものです。PGIMフィクスト・インカムは、米国SECの登録投資顧問会社であるPGIM インクの債券運用部門です。

原文（英語版）と本資料の間に差異がある場合には、原文（英語版）の内容が優先します。

本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の勧誘又は販売を目的としたものではありません。また、本案内に記載された内容等については今後変更されることもあります。

本資料に記載されている市場動向等は現時点での見解であり、事前の通知なしに変更されることがあります。また、その結果の確実性を表明するものではなく、将来の市場環境の変動等を保証するものでもありません。

本資料で言及されている個別銘柄は例示のみを目的とするものであり、特定の個別銘柄への投資を推奨するものではありません。

本資料に記載されている市場関連データ及び情報等は信頼できると判断した各種情報源から入手したのですが、その情報の正確性、確実性について当社が保証するものではありません。過去の運用実績は必ずしも将来の運用成果等を保証するものではありません。

本資料に掲載された各インデックスに関する知的財産権及びその他の一切の権利は、各インデックスの開発、算出、公表を行う各社に帰属します。

本資料は法務、会計、税務上のアドバイスあるいは投資推奨等を行うために作成されたものではありません。

当社による事前承諾なしに、本資料の一部または全部を複製することは堅くお断り致します。

“Prudential”、“PGIM”、それぞれのロゴおよびロック・シンボルは、プルデンシャル・ファイナンシャル・インクおよびその関連会社のサービスマークであり、多数の国・地域で登録されています。PGIMジャパン株式会社は、世界最大級の金融サービス機関プルデンシャル・ファイナンシャルの一員であり、英国プルデンシャル社とはなんら関係がありません。

PGIM ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 392 号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

PGIMJ112568

3925833-241009